

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第22号

2016. 10



肥前精神医療センター看護師体験 ～インターンシップを開催して～

教育担当看護師長 柴田 理枝

インターンシップとは、社会人としての仕事を経験し、幅広い視野を持つことで、個人としての成長を図ることです。そして、自分の将来を考え、どう行動していくかの道筋を立てて、就職活動に繋げていくことが、インターンシップでの大きな目的となります。

当院でのインターンシップは、

1. 肥前精神医療センターの機能や看護師の役割を理解する。
2. 当院看護部が求めている人材像を理解する。
3. 実際の看護ケア、職員とのコミュニケーションを通し、仕事のやりがいや楽しさ、厳しさを体験する。
4. 就職先選択の参考にする。



という目的を基に、看護師としての仕事体験を通して、肥前精神医療センターを知り、肥前で働く自分の姿をイメージできることにあります。

今年度、大阪から沖縄までの16名の看護学生がインターンシップに参加しました。実際に看護師の仕事を経験しながら、看護師から生の声を聞いたり、看護師と食事を共にすることで、その病棟ならではの雰囲気味わってもらいました。学生は、「精神科の大きな病院ということで、イメージとしてはとても暗く、怖いと思っていましたが、病院全体が明るいというのが印象でした。」「スタッフの方々がとても丁寧で親切に対応して下さい、質問しやすく、わかりやすかったです。」「パンフレットでは知ることのできない病棟での患者との関わりや患者への看護師の思いを知り、自分の看護観についてもう一度考えようと思いました。」「スタッフの方々が笑顔で明るく患者と接している姿を実際に見ることができ、病院の理念にある患者に寄り添った看護を行っている病院だと思いました。」「看護師が中心となって情報提供し、職種を問わず発言していたことがとても印象的でした。」「ここで働いてみたいという気持ちが強くなりました。」と、好評でした。その後、当院への就職につながった学生もいます。残念ながら就職にはつながらなかった学生もいますが、「自分がどのような患者に、どのような看護、関わりをしていきたいのか、しっかり考えて将来進む道を考えたいと思うことができました。」と、当院のインターンシップを経験したことで、自分の求める看護師について考えるきっかけとなることができたようでした。

現在はストレス社会と言われ、心のケアに対する人々のニーズは高まっています。精神疾患は2011年に5大疾病の1つとして、国の対策事業として取り組まれました。そのような背景からか、学生が初めから精神科の看護師を希望することが増えてきていると感じています。一般内科や外科を経験してから精神科を希望し

ても遅くはないといった考えもありますが、看護師としての第一歩を精神科で始めることで、得られるものがたくさんあります。

患者さんを病気からみるのではなく、その人そのものをみること。患者さんにいかに寄り添い、信頼を重ねていくか。その信頼が看護の醍醐味であり、看護師としての技術であること。

そんな看護ができるようになりたいと思う学生を、是非、肥前の看護師として育てたいと思っています。

今後もインターンシップを通して、肥前精神医療センターを理解して頂くとともに、当院が求める看護師を将来の自分の姿として思い描き、当院の理念である【この病院で最も大切な人は患者である】を実践したいと希望する人材を見つけていきたいと思っています。

佐賀県庁における「熊本地震活動報告」に参加して

佐賀県DPAT先遣隊隊員 高尾 碧

本報告は本年8月4日に佐賀県庁で開催された「平成28年度第1回佐賀県災害派遣精神医療チーム(DPAT)運営委員会」の一環として行いました。本委員会はDPAT事業発足に伴い、県内の行政機関、精神科医療機関、専門職等が集まり、協定やマニュアルに関する検討、隊員の認定、研修会の調整等を行っています。発足当初より橋本副院長、久我弘典医師を中心に、県内の関係者が集まり、全国的にも先進的な取り組みを展開していました。

この度、当院より12名の職員が本委員会における「熊本地震における活動報告」に参加し、実際の活動について報告して参りました。熊本地震においては、超急性期から県外のDPAT隊から熊本県内のDPAT隊へその活動を引き継ぐ時期まで継続して支援を行って参りました。佐賀県からは全9隊、延べ36名を派遣しており、過半数が当院の職員でした。またNH0菊池病院の被災に伴い、重度心身障害児・者の転院受け入れも行い、まさにオール肥前で支援を行うことができたと思います。

まだ熊本地震により避難生活を余儀なくされている被災者の方もいらっしゃいます。当院としても現在できる支援を探しつつ、次の災害に備えて体制、資機材、マニュアル等の整備を進めていくことが必要と考えています。興味のある方は、ぜひ一緒に準備を進めていきましょう。





精神科の風景

～ 診療 ～ 精神科医長 遠藤 光一

ある日の外来での診察の様子である。

「ちょっと入院は勘弁してください。もうお酒は一滴も飲みませんから。」

「そんなこと言って、いつもすぐに飲んじゃうでしょう。会社からも言われてるんだから、入院して治療を受けてよ。」

Aさんは、毎日かなりの飲酒をして、肝臓が悪くなっており、また仕事にも支障をきたすようになってきたため、会社の産業医からの紹介で来院されたアルコール依存症の患者さんである。診察の結果、入院治療が必要と判断して、入院を勧めているところである。

「アルコール依存症という病気は、お酒をコントロールして飲むことができなくなる病気なんですよ。だから、飲むたびに仕事に行けなくなったり、道路で寝ちゃったりと問題を起こしてしまいます。世間ではアル中とか言って、意志が弱いとか頭がおかしいような言い方をされますが、そんなものではないんです。病気なので入院して治療する必要があるんですよ。」

と説得を続けたが、Aさんは首を縦に振らなかった。

最後には奥さんが「先生、このまま連れて帰っても同じことの繰り返しなので、強制入院させてください。何かあっても文句は言いませんから。」と「強制入院」を希望された。

「お気持ちは分かりますが、強制入院はさせられません。あくまで自分の意志で入院して治療を受けてもらわなければなりません。」

「それなら、私がこの人に殴られてケガをしたとしても強制入院はできないんですか？」

「実際のところ、単に酩酊して暴力をふるったのであれば、普通の傷害事件と同じように警察対応になります。」

「そんなばかなことがあるんですか!」

「そんなことがあっていいわけはありませんよ。だから今こうして治療を受けるように説得してるんです。」

幸いAさんは最終的には入院に同意してくれ、家族も一安心となった。

アルコール依存症は上記のように飲酒のコントロールができなくなっている病気なので、治療には「断酒」が必要である。しかし、酒を飲めないこと以外は、日常生活には何の支障もきたさない。それは、糖尿病の方が食事制限をしなければならないが、それ以外は特に仕事や生活に制限がないのと同じである。しかし、世間での印象は両者で全く違う。先ず、病気であると認めてもらうことから始めなければならないのはこの

病気だけではないだろうか。

ちなみにAさんはその後、真面目に治療を受けてくださり、退院後も断酒が続いている。仕事も普通にこなし、健康的に家族と暮らしている。

「最初は自分でも信じられなかったけど、依存症だと認めることができたのがよかったんでしょうか。こうやって元気に暮らしていると、前のような生活には戻りたくないと強く思いますね。だから、今でも飲まないんじゃないかな。」

この言葉は私自身も他の患者さんによく話させてもらっている。患者さんから大切なことをたくさん教えてもらえるのもこの病気だけではないだろうか。



是非御試ください。



おすすめの一品

(シリーズその③)

栄養管理室 米倉 貴子

当院の「メンチカツ」は1つ1つ愛情込めて手作りしておりますので、ふわっと柔らかくボリューム満点に仕上がっているのが特徴です。この「メンチカツ」は明治時代、東京浅草の洋食店で考案されたのがはじまりと言われており、《カタカナ》表記ではありますが、日本生まれの料理です。『メンチ』や『ミンチ』など各地で呼び名も様々あり昔から馴染みある1品ですね。

●材料(1人当たりの数量)

材料名	数量(g)	材料名	数量(g)
牛ひき肉(もも)	50 g	小麦粉	10 g
豚ひき肉(もも)	30 g	卵	10 g
卵(つなぎ用)	8 g	パン粉	10 g
片栗粉	2 g	揚げ油	10 g
玉ねぎ	40 g	<付け合わせ>	
サラダ油	2 g	スパゲティ	15 g
塩	0.5 g	塩/こしょう	少々
こしょう	0.01 g	オリーブ油	適宜
		パセリ	少々

料理名: **メンチカツ**

栄養価: エネルギー 393kcal、たんぱく質 20 g、
脂質 24.8 g、塩分 0.7 g



●作り方

- ① 玉ねぎはみじん切りにして油で柔らかくなるまで炒めて粗熱をとっておく。
- ② 牛ひき肉・豚ひき肉・卵・片栗粉を混ぜ合わせ、①の玉ねぎを入れて捏ねる。
- ③ 塩、こしょうを加え、少し粘りが出るくらいによく捏ねる。
- ④ 大きさを整えながら長丸型に成型し、小麦粉、卵、パン粉の順に衣をつける。
- ⑤ 予め加熱しておいた揚げ油で表面がこんがりするまで揚げる。
- ⑥ 茹であがったスパゲティにオリーブ油をまぶしパセリを混ぜる。
- ⑦ メンチカツとスパゲティを盛り付けてできあがり。

お好みでカレー粉やチリパウダー、チーズを入れてアレンジするのもおすすめです。どうぞお試しください。

第1回 肥前ふれあい健康まつりについて

生活療法・行事調整委員会委員長 藤本 亮一



写真①「肥前ふれあい健康祭り 開会式」

H 28 年 5 月 28 日（土） 地域住民に対し、精神科に関する知識や情報の発信と精神科への偏見を和らげるとともに、心の健康への関心を高めることを目的に、作業療法棟内にて「肥前ふれあい健康まつり」を開催しました。当院初の試みであり、幅広い年齢層の方々に興味・関心を持っていただけるよう、内容を工夫しました（写真①）（写真②）。その成果があり、地域作業所の方々よりご協力いただいた弁当やパン等の販売と、当院職員の皆様にご協力いただいた「物品バザーコーナー（写真③）」を筆頭に「骨密度測定（写真④）」、「アルコール体質判定パッチテスト（写真⑤）」、ご自身の介護体験を交えながらご講演いただいた福元医師の「あなたの認知症を予防しよう（写真⑥）」、迫力ある演奏で会場における一体感が生じた「赤熊太鼓（写真⑦）」などが大変好評を得ました。また、健康相談コーナーにおける「スト

肥前ふれあい健康まつり 2016

講演	10:00~10:15	副院長挨拶
	10:15~11:00	「あなたの認知症を予防しよう」
	13:40~14:15	「身近な依存症について」
アトラクション	11:00~12:00	赤熊太鼓
	13:00~13:30	BLS（一次救命処置）講習
	14:15~15:00	三田川中学校 プラスバンド演奏
健康相談コーナー	10:00~15:00	お薬相談（午前のみ）、栄養相談、 脳年齢チェック、ストレスチェック
各種測定コーナー	10:00~15:00	身長、体重、血圧、体脂肪、骨密度 アルコールパッチテスト
軽食バザー	10:00~14:00	パン、ポップコーン、ソフトクリーム おにぎり、お弁当、など
物品バザー	10:00~14:00	日用品、高級雑貨など
展示コーナー	10:00~15:00	作業療法作品展示、病棟紹介など

こころの健康を
考えてみませんか？

日時：平成28年5月28日（土）
10:00~15:00 入場無料

場所：肥前精神医療センター 作業療法棟
電話：0952-52-3231（内線：7762）

写真②「肥前ふれあい健康祭り ポスター」



写真③「物品バザーコーナー」



写真④「骨密度測定」



写真⑤「アルコール体質判定パッチテスト」

レスチェックコーナー（写真⑧）」では、相談に訪れる来場者が途絶えることなく、個人が心の健康を保とうとするニーズの高まりを感じさせるものがありました。当日は、あいにくの雨模様でしたが、88名の来場者がありました。来場者より、「初めてここに来ましたが、とても有意義で楽しかったです。また来ます。」等、健康祭りの継続を希望される意見をたくさんいただきました。今後も地域に根ざした病院を目指し、当院が心のオアシスの場として機能していけるよう、健康まつりを継続したいと思います。



写真⑥「講演:あなたの認知症を予防しよう」



写真⑦「赤熊太鼓」



写真⑧「ストレスチェックコーナー」





肥前納涼祭

作業療法士長 塚原 宏恵



去る8月9日に平成28年度の肥前納涼祭が開催されました。

外の気温が35℃を超える猛暑日の中、昨年7月に新しくなった作業療法棟の体育館で、昨年に引き続き今年も行われました。午前には病棟や患者実行委員「肥前ぴあ」のメンバー、タルクのメンバーによる出店で、アイスクリームやかき

氷、ジュース、綿菓子、チキンナゲットなどが飛ぶように売れていきました。会場はスタッフにより、ちようちの飾り付けがされ、祭りの雰囲気醸し出していました。

午後は真美体操の非常勤講師のリードで盆踊りを行いました。この日に向けて日常の作業療法の活動の中で練習を重ねたこともあり、慣れた様子で踊られる方もいらっしゃれば、初めて踊る方も講師や他の人の動きを見ながら楽しそうに踊られていました。スタッフに車椅子を押され踊りの輪に加わり、両手を上手に動かして踊られる方もいらっしゃいました。また、日常、車椅子で過ごされることが多い方が、この日はいつも一緒にリハビリをしている理学療法士に見守られながら、立って踊りの輪に加わり生き生きとされていました。踊りの最後は南アフリカでのワールドカップを記念して作られた「WAKAWAKA」とい



う曲に乗って、アフリカのリズムを感じながら、皆で踊りました。

盆踊りの後は、当院の職員や外来患者さんによる「つくしバンド」の演奏が行われました。素敵な歌声や迫力ある演奏に、手拍子や拍手が起こり、思い思いにリズムを取り、身体を揺らしながら心地よさそうに聞かれている患者さんの様子が印象的でした。



7年前までの当院の納涼祭は広いグラウンドに檣を組んで、夕方から夜にかけて行われていました。患者さん達は浴衣に身を包み、ちょうちんには一つ一つ電球が仕込まれライトアップされ、多くの夜店が各病棟から出店され、祭りの最後は花火でしめるとというのが恒例でした。近隣地区の区長さん達を招待し、花火の時には近くにお住まいの地域住民の方が家から出て観賞されていました。7年ぶりに参加した当院の納涼祭は場所や時間も変わって、時代や当院の環境、患者さんの状態に合わせての変化であり、仕方の無いことかなと思いつつ少し寂しさも感じていました。しかし、午前午後合わせてのべ120名を超える患者さんが参加され、楽しそうな顔、嬉しそうな顔、生き生きした顔を拝見していると、このような院内行事は形を変えても継続していかなければと思いました。「来年はぜひ、花火を上げましょう」と挨拶された院長先生の言葉を信じ、患者さん共々、私自身も楽しみにしたいと思います。



8月1日(月) 総合防災避難訓練を行いました。

庶務係 石田 匠一

7月28日に事前の打ち合わせ会議を行いました。その中で、訓練の実施内容及び注意事項について説明がありました。訓練に参加する職員は、自分の役割と訓練全体の流れを確認しました。

訓練は、40名以上の職員が参加しました。訓練内容は、昼間の出火を想定した消防訓練で、出火場所は、北3病棟の喫煙室の想定で行いました。

消防訓練には、神埼消防署の方々にもご協力を頂き、当院の訓練状況をチェックして頂きました。

精神疾患の患者さんを、安全に配慮しながら避難させることが、

困難な場合も想定できるため、職員は訓練に真剣に取り組みました。

神埼消防署の方からは、全体的にキビキビとした、良い訓練であったこと、また、火が天井の高さまで上がっていたら、初期消火で消すことは無理なので、直ぐに患者さんの避難の誘導に移ってください、と注意事項を受けました。

続いて、水消火器と消火器を用いた消火訓練を行いました。日頃、消火器を使うことがない職員は暑い中汗をかきながら消火器の操作方法に耳を傾け消火訓練を行いました。





8/6(土)

第11回吉野ヶ里町「夏ふれあい祭り」に参加して。

西5病棟 江崎 英二

北3病棟 田中 憲太郎

平成28年8月6日(土)、田手川河川敷にて第11回吉野ヶ里町「夏ふれあい祭り」が開催されました(写真①)。当日は、去年に引き続き当日は連日の猛暑で大変暑い一日でした。ふれあい祭りにおいては、山女魚の掴み取り、水中宝探し(写真②)、竹の水鉄砲作り(写真③)等の競技やイベントが行われました。年に一度だけ「夏ふれあい祭り」開催日のみ田手川に入る事が許可されているだけあって子供達は、生き生きとした表情でとても楽しそうでした。猛暑日だったため熱中症の心配をしておりましたが、来場者の方々はこまめに水分補給をされていたため熱中症の方はいませんでした。今回、救護班として二名参加させて頂きましたが、大きな事故もなく救護班を利用される方もいなくて安心しています。また、機会があれば地域貢献活動の推進のため参加したいと思います。



写真① 第11回吉野ヶ里町「夏ふれあい祭り」会場



写真② 水中宝探し



写真③ 竹の水鉄砲作り





名所案内:神埼駅

編集部



神埼駅は、当院より車で約10分、佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里にある。九州旅客鉄道（JR九州）長崎本線の駅である。

神埼市の中心駅で一日の乗車人数は約1700人である。

神埼駅は、吉野ヶ里遺跡に徒歩10分の距離にあるためか、駅舎のデザインは弥生時代の高床式倉庫をイメージしたデザインになっている。全面ガラス張りでうちわのような形をしているので、遠くから見てもインパクトのある駅の形をしている。

私の趣味 「よさこい」

企画課 財務管理係 吉田 茜

私の趣味は「よさこい」です。

土佐の高知で戦後復興を祈願して始まったこのお祭りは、ここ十数年で全国各地へと広まり、現在では老若男女多くの人々がよさこいを楽しんでいます。

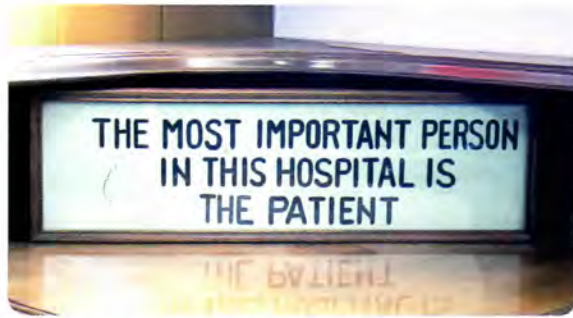
私がよさこいに出会ったのは今から15年前、小学3年生の時です。福岡の地元の町興しとして始まったお祭りに参加したことがきっかけでした。翌年から、母が地域の人たちと立ち上げたチームで5年間踊り続け、地元の祭りや博多どんたくにも参加しました。その中で私は、自分を表現することの楽しさを知りました。

それから高校受験を機に一度引退し、就職して1年が過ぎた頃、再び踊りたいという想いが強くなり、佐賀市内で活動している「嘉人恋（がじんれん）」というチームに入りました。毎年春から秋にかけて、九州各地で開催される様々なお祭りに参加しています。



私が思うよさこいの魅力とは、一人ひとりの想いが集まりひとつの作品を創り上げていく美しさや、それにより踊る側にも観る側にも与えられる感動、喜びといった“心の震え”です。本気で踊っていると、本気で踊っている人を観ると、心が震えるのです。これがあるから、私はよさこいを止められません。祭りを通していろいろな人と交流したり、ご当地の美味しい物を味わったり出来るのもまた魅力のひとつです。

「心踊れば皆同じ」という言葉があります。踊れるか踊れないかは問題ではありません。心が踊れば誰でもよさこいを楽しむことができます。一緒に心踊らせてみませんか？興味のある方はぜひ私までご連絡ください。



基本理念が記されているこのプレートは、旧木造外来治療棟の白壁に書かれていたものを建物解体時に切り取ったものです。1956年(昭和31年)～1960年(昭和35年)、日本で初めて開放処遇を実践した、故伊藤正雄所長時代を記念したものです。

基本理念

THE MOST IMPORTANT PERSON IN THIS HOSPITAL IS THE PATIENT

この病院で最も大切な人は患者さんである。

目次

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|---------------------------------|
| P.1-2 | ・肥前精神医療センター看護師体験
～インターンシップを開催して～ | P.7-8 | ・肥前納涼祭 |
| P.2 | ・佐賀県庁における「熊本地震活動報告」に参加して | P.8 | ・8月1日(月)総合防災避難訓練を行いました。 |
| P.3-4 | ・精神科の風景～診療～ | P.9 | ・8/6(土)第11回吉野ヶ里町「夏ふれあい祭り」に参加して。 |
| P.4 | ・おすすめの一品：メンチカツ | P.10 | ・名所案内：神埼駅 |
| P.5-6 | ・第1回 肥前ふれあい健康まつりについて | | ・私の趣味：よさこい |

◆編集後記◆

リオデジャネイロのオリンピックとパラリンピックが閉幕した。オリンピックでは日本は史上最多の41個のメダルを獲得した。大舞台で自分を信じて最後まであきらめずに戦っている選手の姿は日本中に勇気と感動の嵐を巻き起こした。次は4年後の東京五輪、どんなドラマがそこにあるのか、メダルの数も期待したいが選手たちの熱い戦いを楽しみたい。 編集部



患者の権利

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利 | 5. 常に人としての尊厳を守られる権利 |
| 2. 疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利 | 6. 医療上の苦情を申し立てる権利 |
| 3. 治療法を自由に選択し、決定する権利 | 7. 継続して一貫した医療を受ける権利 |
| 4. プライバシーが守られる権利 | 8. QOL や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

患者の義務

1. 情報を提供する義務 2. 状況を確認する義務 3. 診療に協力する義務 4. 医療費を支払う義務

平成 28 年 10 月発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本(喜) 副委員長：須藤、村川、吉永

委員：佐川、宮下(聡)、久我(弘)、大石、伊藤、有馬、山口、前田、中村、大兼久、山崎(珠)、岩崎、大坪、山崎(京)、天野、江田、田中、永元、宮下、山下、宮崎、川本、大庭

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160 TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864 ホームページ <http://www.hizen-hosp.jp/>